

名寄市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

名寄市では近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、車を所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。

当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、当市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

名寄市郊外部においては、定時定路線型の路線バスでは、非効率な運行となり、また、交通サービスレベルも低いと考えられる。さらに高齢者は、バス停留所までの移動距離に対して負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地帯を解消するとともに、「買い物」や「通院・通学」などの日常生活に必要な「地域の足」を確保する。

【具体的目標】

デマンド型交通(下多寄線)の利用者数の向上 → 目標200人/月

デマンド型交通(御料線)の利用者数の向上 → 目標200人/月

デマンド型交通(下多寄線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

デマンド型交通(御料線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

令和5年度事業概要

下多寄線(西風連～風連駅～名寄駅)
運行回数 往路4回・復路5回

御料線(風連日進～風連町内～道の駅)
運行回数 往路5回・復路5回

【下多寄線】

○利用料金 大人1名	風連 2区	下多寄 3区	下多寄 4区	下多寄 5区	風連 豊里	西風連	共和	豊栄
	風連地区まで	300円	300円	300円	300円	300円	400円	400円
名寄地区まで	600円	700円	700円	600円	500円	800円	400円	300円

【御料線】

●デマンドバス料金表	日進・東生	旭	中央	緑町
	対象エリア内の移動	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)
風連市街地までの移動	400円 (高校生以下:200円)	300円 (高校生以下:150円)	250円 (高校生以下:130円)	200円 (高校生以下:100円)

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線(名寄、風連、東風連、日進、智恵文、智北)
- ・名士バス(株)(市内5路線、郊外5路線)
- ・道北バス(株)(2路線)
- ・士別軌道(株)(1路線)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)(郊外1路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、共同運行)
- ・スクールバス(7路線)
- ・宗谷バス(都市間バス1路線)

協議会開催状況

- ・令和4年6月24日 令和4年度第1回協議会を開催
協議会の主な開催経過について
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ・令和4年9月16日 令和4年度第2回協議会を開催
コミュニティバス西回り線減便について
新たな交通モードの検討について
- ・令和5年5月17日 令和5年度第1回協議会を開催
AI活用型オンデマンド交通の導入について
- ・令和5年6月16日 令和5年度第2回協議会を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ・令和5年8月18日 令和5年度第3回協議会を開催
AI活用型オンデマンド交通の仕様等について

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

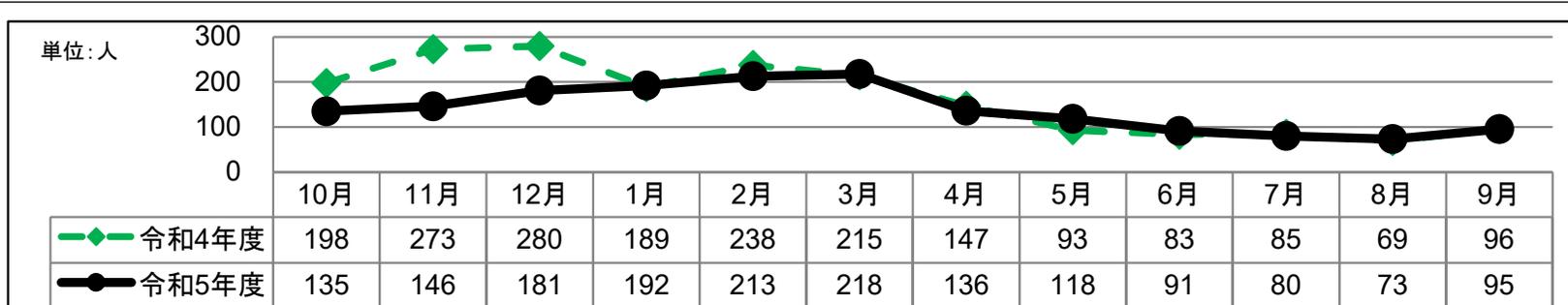
- ・デマンド型交通については、利用者になじみのない予約型の運行システムのため、PRチラシやホームページでの周知を継続して実施を行った。
- ・とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響により老人クラブ等の会合で利用を呼びかけるといった機会が無かったため、広報誌を用いて公共交通全般に関する利用促進、周知啓発活動を行った(R5.8月号掲載)。公共交通で移動を楽しむ意義について啓発する内容となっています。
- ・アンケート調査を実施し、乗降指定箇所の見直しを行った(R1.10に1箇所)。



2) 運行系統

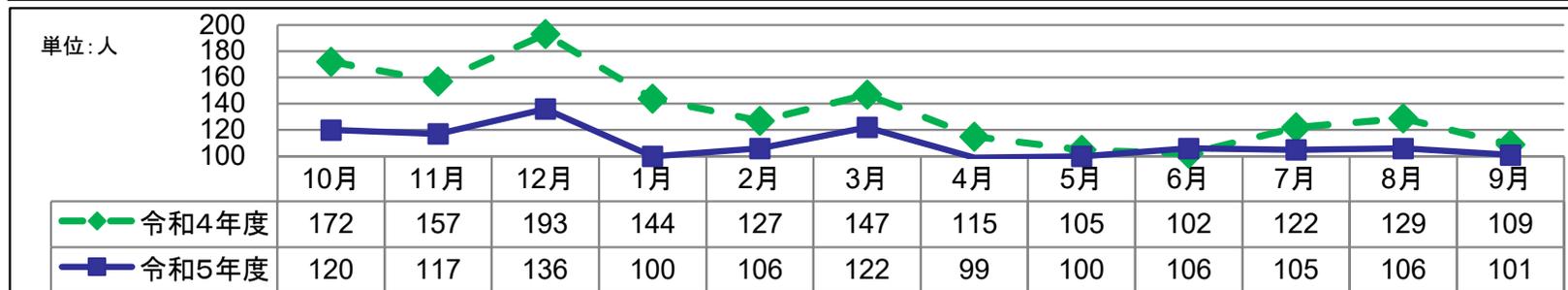


3) 利用実績



下多寄線

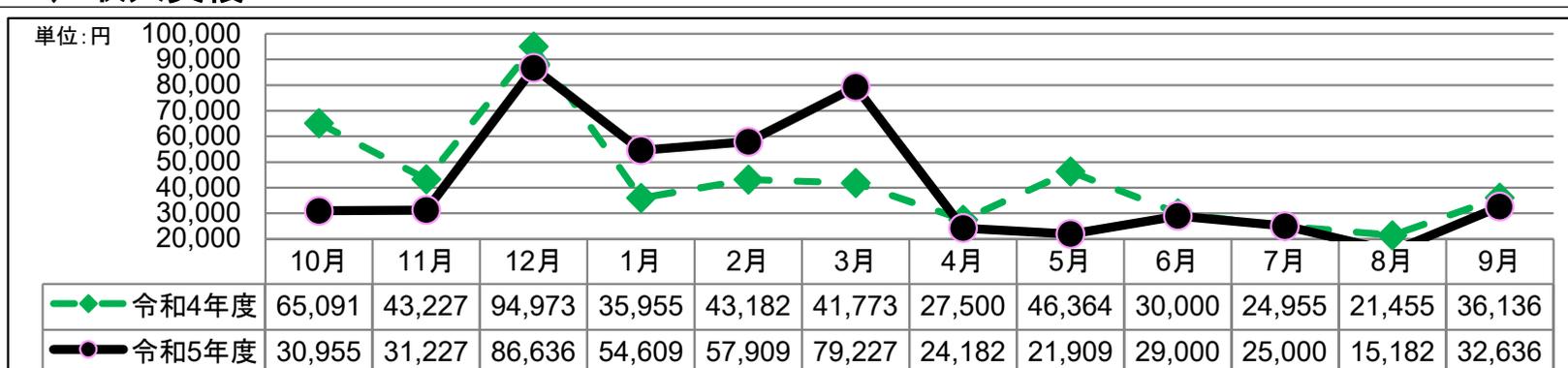
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
1,966	1,186	780
1,678	1,343	335



御料線

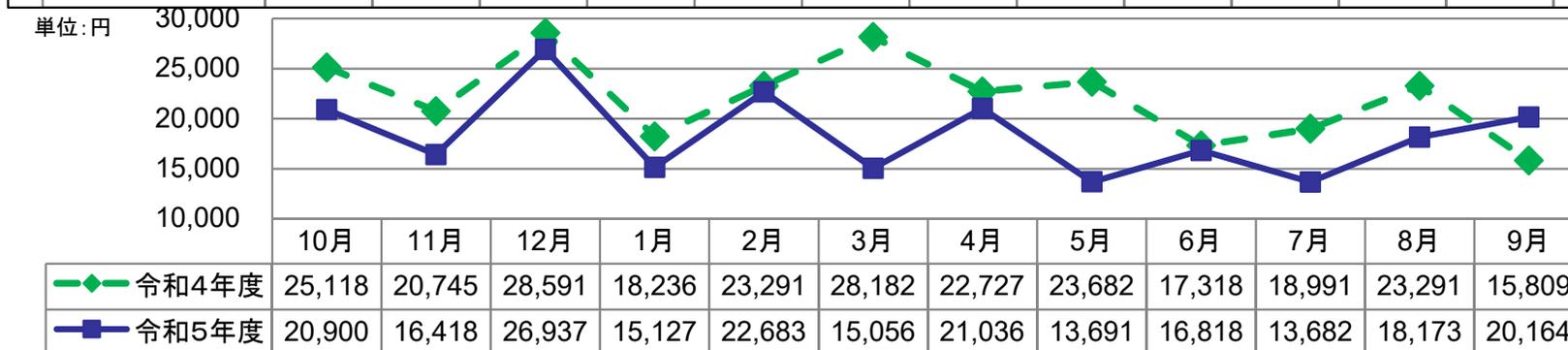
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
1,622	1,622	0
1,318	1,318	0

4) 収入実績



下多寄線

合計
510,611
488,472



御料線

合計
365,981
220,685

5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

・デマンド型交通の利用者数の向上

下多寄線

月平均利用者数 目標200人／月 → 実績140人／月
新型コロナウイルス感染症の影響や通学で利用していた学生の卒業などのため利用が減少しており、目標値▲60人／月であった。

御料線

月平均利用者数 目標200人／月 → 実績110人／月
新型コロナウイルス感染症の影響のため利用が減少しており、目標値▲90人／月であった。

・デマンド型交通の利用者満足度の向上

下多寄線

目標 100% → 100%

御料線

目標 100% → 100%

令和5年4月～5月実施のアンケート調査において、下多寄線及び御料線の満足度が昨年に引き続き100%となった。

・効果

冬期間のみならず、通年(下多寄線298日稼働、御料線318日稼働)の利用があり、住民への公共交通手段の提供が適切に行われた。

7) 事業の今後の改善点

【下多寄線】

運行から12年が経過し、地域への定着は着実に進んでいる。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や通学で利用していた学生の卒業などにより、大きく利用者が減少する結果となった。令和5年5月よりコロナ5類となり、外出機会の増加が想定されることから、あらためて老人クラブの会合等で新規利用者の拡大に努めていく。

【御料線】

運行開始から5年目を経過したところであり、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。

現状、高頻度で利用いただいている利用者が数名おり、定着化が進んでいるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が伸び悩む状況となった。

令和5年5月よりコロナ5類となり、外出機会の増加が想定されることから、あらためて老人クラブの会合等で新規利用者の拡大に努めていく。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)